

当時の大谷村長は『民間会社に毎年2億円』

払う必要なくなったら2億円

毎年2億円入っているはずが いまだかつて入ったのはゼロ

小林村長 改善調査の必要性

弥彦村9月定例会 ～4日目～ 9月12日

午前十時開会。決算審査を行い、平成二十八年年度一般会計決算など八件すべて全会一致で認定した。十一時五十分散会。十三日と十四日は休会。最終日の十五日は本会議を開き、委員長報告に続いて二十八年年度一般会計補正予算などの採決を行う。

答弁する小林村長



決算は一般会計と、国道事業の企業会計二会たふるさと納税三億五千九百四十七万二千円に民間健康保険、後期高齢者医療、介護保険、競輪事業、温泉事業の特別会計、安達丈夫氏(無所属)が、加した場合の返礼品の五会計、水道事業、下水道前年度比で大幅増となっ

確保状況について質問。志田警備農産振興課長は伊彌彦米協力を立ち上げ、二十九年産米については四法人一人人で二千百俵を確保していることを報告し、それを基礎としてJ.A.農事組合法人にも協力を依頼するつもりだ。

田中満男氏(無所属)は健康寿命延伸事業経費十九万六千五百九十九円に、六十歳以上の村民に歩数計を配布して健康づくりに取り組んでもらう事業の実績などを質問。

山岸喜一総務課長は「私自身も流用が多いと感じていた。十一年前くらいはほとんど流用はなかったと記憶する」と指摘を認め、「補正すればいいので十分考えさせていた」と述べた。

高島公営競技事務所長は「民間会社が弥彦競輪場を所有しているという」と質問した。

小林村長は「確かに今の職員が徹底的にやるのは難しい。組織はそういうもの。かつての先輩、上司がやったことを見直して、おかしいとあつちうものはまず無理。したがって全国の競輪場の中で三十場近くは外部監査を実施している。当たり前のこと。組織はそういうもの。それをやらせるのは酷。外部で客観的にやっていたらいい」と、外部による調査の必要性を訴えた。

その効果について、小林村長は「外部からやっていたらいい、ちゃんとやられているというのなら、返済に充てました」。そのお金のどこに行っていたのかと聞いたが、返済はなかった。いまだかつて一般会計に二億円が入ったのはゼロ。それはおかしいのでないか」と、経

たため、この日午後から会議を開き、周知方法などを検討するとした。柏木文男氏(無所属)は決算の中で予算流用が六十二件あったとして「予算現額なんぞでどうもいい、勝手に流用できないのなら議会も要らないのではないか」と批判。

本多隆峰氏(無所属)は同じく、「いっその経営節減と効率的な事業運営」について、大谷良孝前村長時代に収支改善計画を策定し、日本自転車競技会(現JKA)への交付金七億円の猶予を受け、施設会社からの弥彦競輪場の負担付き寄付、施設会社へのサテライト新潟の無償譲渡が行ったことによる経費節減について質問した。

小林村長は「私の記憶では、当時の大谷村長は民間会社に二億円を毎年払っていた」と話していた。

そのうえで、「私が村長になったとき、その二億円はどこに行っていたか聞いていた。当時の公営競技事務所長は『七億円の早期返済に充てました』。それは分かるが、それは五年間のはず。それから毎年二億円入っているのにお金はどこに行っていたのかと聞いたが、返済はなかった。いまだかつて一般会計に二億円が入ったのはゼロ。それはおかしいのでないか」と、経

営改善調査の必要性を示唆した。経営改善調査について、本多氏は、小林村長が職員による調査は難しいという理由、外部による調査の効果について質問。

小林村長は「確かに今の職員が徹底的にやるのは難しい。組織はそういうもの。かつての先輩、上司がやったことを見直して、おかしいとあつちうものはまず無理。したがって全国の競輪場の中で三十場近くは外部監査を実施している。当たり前のこと。組織はそういうもの。それをやらせるのは酷。外部で客観的にやっていたらいい」と、外部による調査の必要性を訴えた。

その効果について、小林村長は「外部からやっていたらいい、ちゃんとやられているというのなら、返済に充てました」。そのお金のどこに行っていたのかと聞いたが、返済はなかった。いまだかつて一般会計に二億円が入ったのはゼロ。それはおかしいのでないか」と、経

たため、この日午後から会議を開き、周知方法などを検討するとした。柏木文男氏(無所属)は決算の中で予算流用が六十二件あったとして「予算現額なんぞでどうもいい、勝手に流用できないのなら議会も要らないのではないか」と批判。

本多隆峰氏(無所属)は同じく、「いっその経営節減と効率的な事業運営」について、大谷良孝前村長時代に収支改善計画を策定し、日本自転車競技会(現JKA)への交付金七億円の猶予を受け、施設会社からの弥彦競輪場の負担付き寄付、施設会社へのサテライト新潟の無償譲渡が行ったことによる経費節減について質問した。

小林村長は「私の記憶では、当時の大谷村長は民間会社に二億円を毎年払っていた」と話していた。

そのうえで、「私が村長になったとき、その二億円はどこに行っていたか聞いていた。当時の公営競技事務所長は『七億円の早期返済に充てました』。それは分かるが、それは五年間のはず。それから毎年二億円入っているのにお金はどこに行っていたのかと聞いたが、返済はなかった。いまだかつて一般会計に二億円が入ったのはゼロ。それはおかしいのでないか」と、経

営改善調査の必要性を示唆した。経営改善調査について、本多氏は、小林村長が職員による調査は難しいという理由、外部による調査の効果について質問。

小林村長は「確かに今の職員が徹底的にやるのは難しい。組織はそういうもの。かつての先輩、上司がやったことを見直して、おかしいとあつちうものはまず無理。したがって全国の競輪場の中で三十場近くは外部監査を実施している。当たり前のこと。組織はそういうもの。それをやらせるのは酷。外部で客観的にやっていたらいい」と、外部による調査の必要性を訴えた。

その効果について、小林村長は「外部からやっていたらいい、ちゃんとやられているというのなら、返済に充てました」。そのお金のどこに行っていたのかと聞いたが、返済はなかった。いまだかつて一般会計に二億円が入ったのはゼロ。それはおかしいのでないか」と、経

たため、この日午後から会議を開き、周知方法などを検討するとした。柏木文男氏(無所属)は決算の中で予算流用が六十二件あったとして「予算現額なんぞでどうもいい、勝手に流用できないのなら議会も要らないのではないか」と批判。

本多隆峰氏(無所属)は同じく、「いっその経営節減と効率的な事業運営」について、大谷良孝前村長時代に収支改善計画を策定し、日本自転車競技会(現JKA)への交付金七億円の猶予を受け、施設会社からの弥彦競輪場の負担付き寄付、施設会社へのサテライト新潟の無償譲渡が行ったことによる経費節減について質問した。

小林村長は「私の記憶では、当時の大谷村長は民間会社に二億円を毎年払っていた」と話していた。

そのうえで、「私が村長になったとき、その二億円はどこに行っていたか聞いていた。当時の公営競技事務所長は『七億円の早期返済に充てました』。それは分かるが、それは五年間のはず。それから毎年二億円入っているのにお金はどこに行っていたのかと聞いたが、返済はなかった。いまだかつて一般会計に二億円が入ったのはゼロ。それはおかしいのでないか」と、経

営改善調査の必要性を示唆した。経営改善調査について、本多氏は、小林村長が職員による調査は難しいという理由、外部による調査の効果について質問。

小林村長は「確かに今の職員が徹底的にやるのは難しい。組織はそういうもの。かつての先輩、上司がやったことを見直して、おかしいとあつちうものはまず無理。したがって全国の競輪場の中で三十場近くは外部監査を実施している。当たり前のこと。組織はそういうもの。それをやらせるのは酷。外部で客観的にやっていたらいい」と、外部による調査の必要性を訴えた。

その効果について、小林村長は「外部からやっていたらいい、ちゃんとやられているというのなら、返済に充てました」。そのお金のどこに行っていたのかと聞いたが、返済はなかった。いまだかつて一般会計に二億円が入ったのはゼロ。それはおかしいのでないか」と、経

たため、この日午後から会議を開き、周知方法などを検討するとした。柏木文男氏(無所属)は決算の中で予算流用が六十二件あったとして「予算現額なんぞでどうもいい、勝手に流用できないのなら議会も要らないのではないか」と批判。

本多隆峰氏(無所属)は同じく、「いっその経営節減と効率的な事業運営」について、大谷良孝前村長時代に収支改善計画を策定し、日本自転車競技会(現JKA)への交付金七億円の猶予を受け、施設会社からの弥彦競輪場の負担付き寄付、施設会社へのサテライト新潟の無償譲渡が行ったことによる経費節減について質問した。

小林村長は「私の記憶では、当時の大谷村長は民間会社に二億円を毎年払っていた」と話していた。

そのうえで、「私が村長になったとき、その二億円はどこに行っていたか聞いていた。当時の公営競技事務所長は『七億円の早期返済に充てました』。それは分かるが、それは五年間のはず。それから毎年二億円入っているのにお金はどこに行っていたのかと聞いたが、返済はなかった。いまだかつて一般会計に二億円が入ったのはゼロ。それはおかしいのでないか」と、経

営改善調査の必要性を示唆した。経営改善調査について、本多氏は、小林村長が職員による調査は難しいという理由、外部による調査の効果について質問。

小林村長は「確かに今の職員が徹底的にやるのは難しい。組織はそういうもの。かつての先輩、上司がやったことを見直して、おかしいとあつちうものはまず無理。したがって全国の競輪場の中で三十場近くは外部監査を実施している。当たり前のこと。組織はそういうもの。それをやらせるのは酷。外部で客観的にやっていたらいい」と、外部による調査の必要性を訴えた。

その効果について、小林村長は「外部からやっていたらいい、ちゃんとやられているというのなら、返済に充てました」。そのお金のどこに行っていたのかと聞いたが、返済はなかった。いまだかつて一般会計に二億円が入ったのはゼロ。それはおかしいのでないか」と、経

たため、この日午後から会議を開き、周知方法などを検討するとした。柏木文男氏(無所属)は決算の中で予算流用が六十二件あったとして「予算現額なんぞでどうもいい、勝手に流用できないのなら議会も要らないのではないか」と批判。

本多隆峰氏(無所属)は同じく、「いっその経営節減と効率的な事業運営」について、大谷良孝前村長時代に収支改善計画を策定し、日本自転車競技会(現JKA)への交付金七億円の猶予を受け、施設会社からの弥彦競輪場の負担付き寄付、施設会社へのサテライト新潟の無償譲渡が行ったことによる経費節減について質問した。

小林村長は「私の記憶では、当時の大谷村長は民間会社に二億円を毎年払っていた」と話していた。

そのうえで、「私が村長になったとき、その二億円はどこに行っていたか聞いていた。当時の公営競技事務所長は『七億円の早期返済に充てました』。それは分かるが、それは五年間のはず。それから毎年二億円入っているのにお金はどこに行っていたのかと聞いたが、返済はなかった。いまだかつて一般会計に二億円が入ったのはゼロ。それはおかしいのでないか」と、経

営改善調査の必要性を示唆した。経営改善調査について、本多氏は、小林村長が職員による調査は難しいという理由、外部による調査の効果について質問。

小林村長は「確かに今の職員が徹底的にやるのは難しい。組織はそういうもの。かつての先輩、上司がやったことを見直して、おかしいとあつちうものはまず無理。したがって全国の競輪場の中で三十場近くは外部監査を実施している。当たり前のこと。組織はそういうもの。それをやらせるのは酷。外部で客観的にやっていたらいい」と、外部による調査の必要性を訴えた。

その効果について、小林村長は「外部からやっていたらいい、ちゃんとやられているというのなら、返済に充てました」。そのお金のどこに行っていたのかと聞いたが、返済はなかった。いまだかつて一般会計に二億円が入ったのはゼロ。それはおかしいのでないか」と、経

たため、この日午後から会議を開き、周知方法などを検討するとした。柏木文男氏(無所属)は決算の中で予算流用が六十二件あったとして「予算現額なんぞでどうもいい、勝手に流用できないのなら議会も要らないのではないか」と批判。

本多隆峰氏(無所属)は同じく、「いっその経営節減と効率的な事業運営」について、大谷良孝前村長時代に収支改善計画を策定し、日本自転車競技会(現JKA)への交付金七億円の猶予を受け、施設会社からの弥彦競輪場の負担付き寄付、施設会社へのサテライト新潟の無償譲渡が行ったことによる経費節減について質問した。

小林村長は「私の記憶では、当時の大谷村長は民間会社に二億円を毎年払っていた」と話していた。

そのうえで、「私が村長になったとき、その二億円はどこに行っていたか聞いていた。当時の公営競技事務所長は『七億円の早期返済に充てました』。それは分かるが、それは五年間のはず。それから毎年二億円入っているのにお金はどこに行っていたのかと聞いたが、返済はなかった。いまだかつて一般会計に二億円が入ったのはゼロ。それはおかしいのでないか」と、経

営改善調査の必要性を示唆した。経営改善調査について、本多氏は、小林村長が職員による調査は難しいという理由、外部による調査の効果について質問。

小林村長は「確かに今の職員が徹底的にやるのは難しい。組織はそういうもの。かつての先輩、上司がやったことを見直して、おかしいとあつちうものはまず無理。したがって全国の競輪場の中で三十場近くは外部監査を実施している。当たり前のこと。組織はそういうもの。それをやらせるのは酷。外部で客観的にやっていたらいい」と、外部による調査の必要性を訴えた。

その効果について、小林村長は「外部からやっていたらいい、ちゃんとやられているというのなら、返済に充てました」。そのお金のどこに行っていたのかと聞いたが、返済はなかった。いまだかつて一般会計に二億円が入ったのはゼロ。それはおかしいのでないか」と、経

かわら 屋根工事専門店 竹石瓦店 検索 (株)竹石瓦店 三島市興野1丁目 ☎(0256)33-1299

弥彦神社前 名代家 電話 ☎三六九四二〇三

ペット・タマ・ サートビス ☎090-8683-4205

新加

魚沼コシ

魚沼コシ

平成29年産米の放射性物質検査の結果

＜検査の概要＞

- 検査対象核種：放射性セシウム
- 分析方法：ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析法
- 検査機関：(一財)新潟県環境衛生研究所

＜検査結果＞

品目	採取地	放射性セシウム	放射性ヨウ素
		セシウム134	セシウム137

菅改善調査の必要性を示唆した。経営改善調査について、本多氏は、小林村長が職員による調査は難しいという理由、外部による調査の効果について質問。